

# 希望の種

ふくおか NPO ファイル

⑭

「不登校や障害による学習や成長の遅れは、本人ではなく、社会にその原因や背景がある。だとすれば、地域社会全体で支え合うのが当然だと思いました」

そう語るのは、通常の学校の勉強についていくのが難しい子どもたちの学習サポート活動に取り組むNPOメイクハッピー&ピースの代表、仲西浩一さん(31)。宗像市の民家を借り、平日はほぼ毎日、放課後から午後9時くらいまで、休日子どもたちの希望に合わせて運営しています。

現在は小学生から高校生までの生徒15人が通っており、多くが何かしらの困難のなかで、学びの場を探し、口コミや市の発達支援センターに設置

## メイクハッピー&ピース

事務所=宗像市▽電話番号=0940(51)2046

メールアドレス=info@m-happy.org

したチラシや紹介などからここにたどり着きました。

子どもたちに勉強を教えるのは、福岡教育大(宗像市)の学生を中心にしたボランティアのスタッフです。40人(2月現在)が登録し、4年生が卒業すると、春には先輩や友人の紹介で新たな学生が加わりま

# 「公平」に学習サポート

す。生徒たちにとっては先生であると同時に、お兄さんお姉さんでもある存在。そのところが勉強だけではなく、心の安心やつながりを感じられる場所になっているようです。学習サポートに通う子どもたちの多くは、自分に自信をたけず、後ろ向きな思考にな

そのほとんどは大学生への謝金や事務経費に消えてしまつたため、自分自身の給与を払うのが難しいのが状態です。このため並行してデザインや映像制作、印刷などを請け負う個人事業も立ち上げ、収入を担保しています。地域に

りがち。このため一人ひとりに合わせた学習計画を立てた上で、「できないこと」よりも「できること」に目を向ける言葉かけを意識し、子どもたちとマンツーマンで接しながら心のサポート、楽しく前向きになれる雰囲気づくりに取り組んでいます。

「平等」というと、全ての人に同じだけの行政サービスや機会を提供することであり、それは同時に、特定の人だけに個別の扱いをしてはいけないという論理にもなりがちです。しかし、「公平」は、その人の個性に合わせたサポートやケアであり、どんな人でも生きやすくなること。一人の人間として包括的に受け止める場がある。それが、メイクハッピー&ピースが目指す幸せの形です。

仲西さんも福岡教育大で、地域社会や福祉、教育を総合的に学びました。2008年に卒業し、大学院に進むと同時にNPOを起業。経営資金は宗像市からの補助金や寄付、会費で賄っていますが、

「自然体験はもちろん大事だが、その前にふだんの学習生活をサポートしないと、この事業をするまで、障害や不登校の問題は、自分にとって遠いところの問題のように感じていました」と仲西さん。昨年12月から1月にかけてインターネットのクラウドファンディングで寄付を募り、新年度に机やいす、参考書を購入して受け入れる子どもの数を増やす予定です。



学習サポートのボランティアスタッフを務める福岡教育大の学生たち